



OKAYAMA
UNIVERSITY

国立大学イノベーション
創出環境強化事業
(令和2年度採択)
フォローアップ調書

法人名：国立大学法人岡山大学
令和3年7月

目次：



1. 民間資金獲得状況
2. 取組の進捗状況
3. 交付金の活用状況
4. 大学収入の状況
5. その他

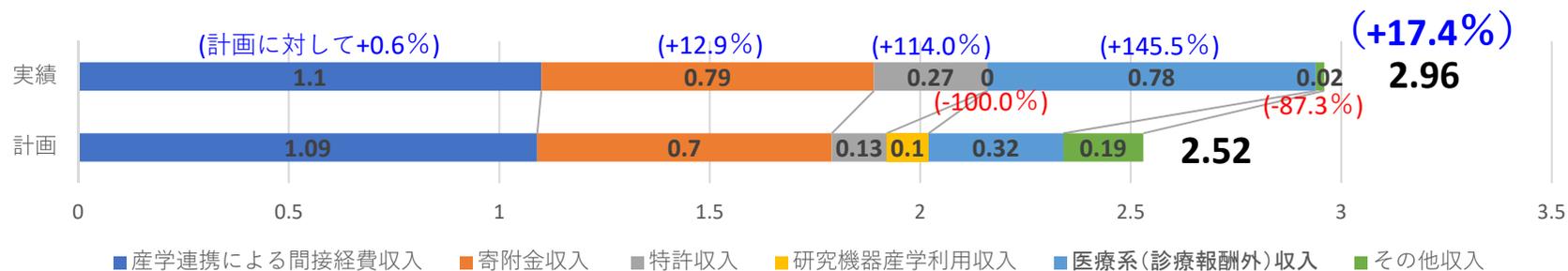
1. 民間資金獲得状況

< 令和2年度の計画と実績 >

費目	計画 (単位:億円)	実績 (単位:億円)	備考
産学連携による間接経費収入	1.09	1.10	
寄附金収入	0.70	0.79	
特許収入※	0.13	0.27	
研究機器産学利用収入※	0.1	0	
医療系(診療報酬外)収入※	0.32	0.78	
その他収入※	0.19	0.02	
民間資金獲得額(全体)	2.52	2.96	

「産学連携による間接経費収入」 について	計画 (単位:億円)	実績 (単位:億円)	備考
間接経費収入	1.09	1.10	対令和元年度134% (間接経費率28%)
上記間接経費収入に対応する直接経費収入	-	3.91	
総額	-	5.01	

令和2年度 経営基盤強化のための民間資金獲得実績 (単位:億円)

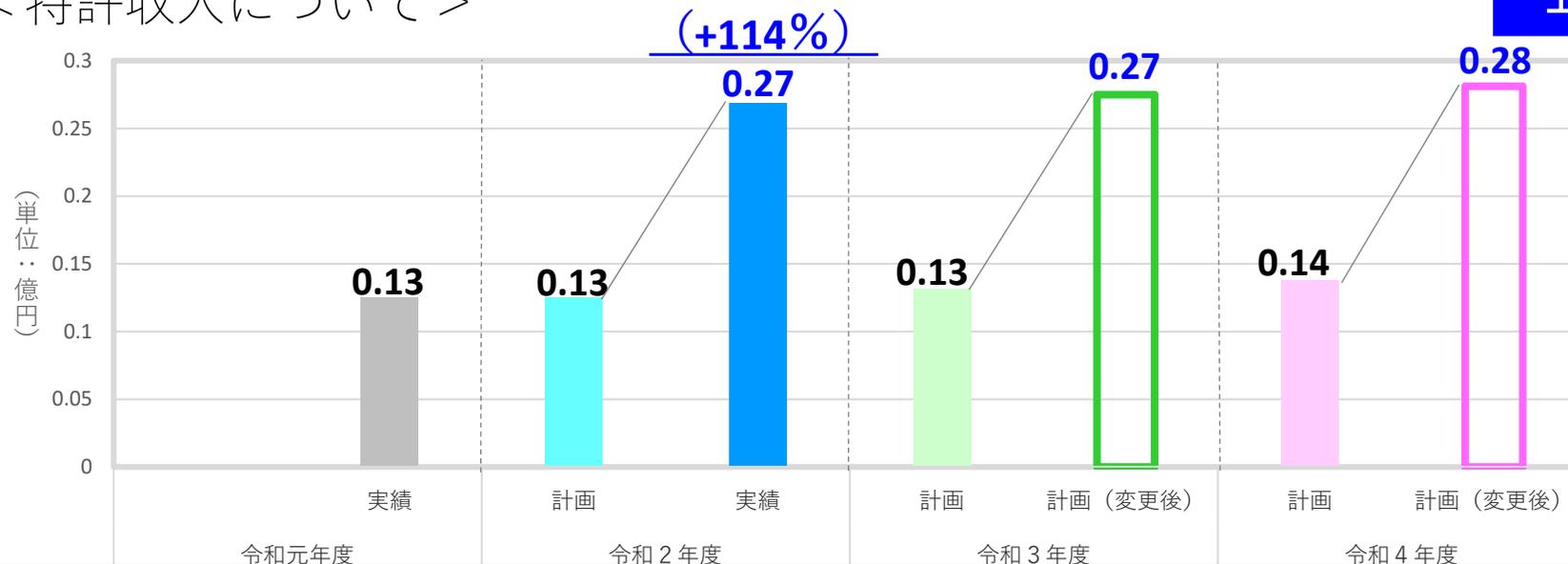


1. 民間資金獲得状況



計画
上方修正

<特許収入について>



《概要・目的》 知財の活用や技術移転等に重きを置いた知的財産ポリシーの改訂や新知財戦略の策定・実施及び「一気通貫型知的財産マネジメント」体制等により増加を図る。

《令和2年度の計画と実績》 計画 0.13 億円 実績 0.27 億円

《要因分析》 令和2年度は、包括連携協定を締結した外部企業との研究活動が技術指導へと発展したことに伴い、技術指導収入が大幅に増加したこと及びコンサルティング収入の増加に伴い、計画以上の収入を得ることができた。

《上方修正》 令和2年度の実績・要因分析を踏まえ、令和3年度以降の計画を上方修正する。

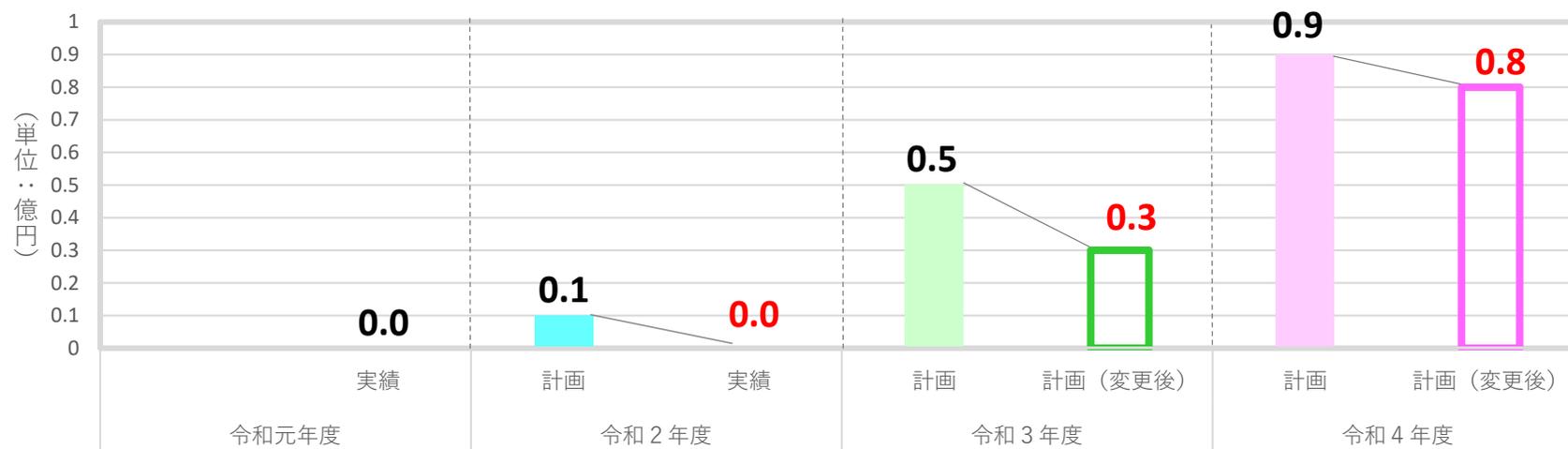
なお、数字の根拠は以下のとおり。注) MTA：研究成果有体物提供契約

- 令和3年度**0.27億円** = 実施許諾：0.15億円，権利譲渡：0.06億円，技術指導：0.05億円，MTA:0.01億円
- 令和4年度**0.28億円** = 実施許諾：0.16億円，権利譲渡：0.06億円，技術指導：0.05億円，MTA:0.01億円

1. 民間資金獲得状況

< 研究機器産学利用収入について >

計画見直し



《概要・目的》 遠隔総合物質解析システム CASTEM 24 Remoteを構築し、産業利用・共同研究を推進する。

《令和2年度の計画と実績》 計画 0.1 億円 実績 0 億円

《原因分析》 主収益源である解析ソリューションビジネスには、ユーザとの信頼関係構築とオフサイト活用に叶うセキュリティ構築が欠かせない。コロナ禍の影響により機器の代理店が買収されるなど想定外のトラブル等を乗り越え、後者は構築完了したが、前者の中核を担うオンサイト解析の推進には、半年以上の遅延が発生した。

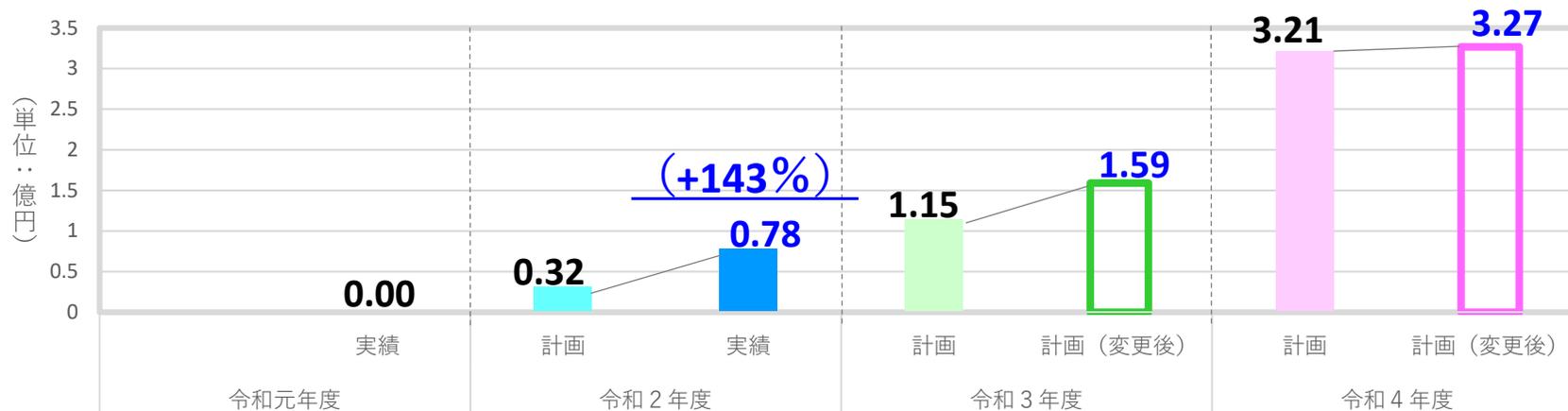
《改善策》 新たに投入したURA2名で見込みユーザへのアプローチを強化する。更にコロナによるユーザとの信頼構築の遅延挽回のため、新たなクロスアポイント雇用者（サイテックコーディネーター）をオンサイト解析業務に投入する。これら施策で遅延分の挽回は図るが、受注リードタイムの長さを勘案し、令和3年度及び令和4年度の計画目標値は下方修正し、令和5年度に遅延解消する見込みである。

- ・ 令和3年度**0.3億円**＝セキュアネットワーク基盤の整備を完了。人件費企業負担の人員派遣受入の推進。
- ・ 令和4年度**0.8億円**＝前年度までに確立したCASTEM 24 Remoteを本格稼働させ、民間資金獲得を進める。

1. 民間資金獲得状況

計画
上方修正

<医療系（診療報酬外）収入について>



《概要・目的》 大学病院の持つ新たな価値として、ビジネスに直結している医療系活動を強化し「収入の増強」を推進する。

《令和2年度の計画と実績》 計画 0.32 億円 実績 0.78 億円

《要因分析》 大学全体のイノベーション創出マネジメント改革、産学共創機能の強化のため創設されるInnovation Management Core (IMaC) の体制整備と並行して、戦略的・組織的産学共創を加速させるため、高度研究支援人材等を配置し、共同研究等の外部資金、研究開発支援費の獲得を図った。また、「新医療研究開発センター」「バイオバンク」「医療情報部」等の連携及び体制強化により検体分譲（診療情報付）収入を獲得した。

《上方修正》 令和2年度の実績・要因分析を踏まえ、令和3年度以降の計画を上方修正する。

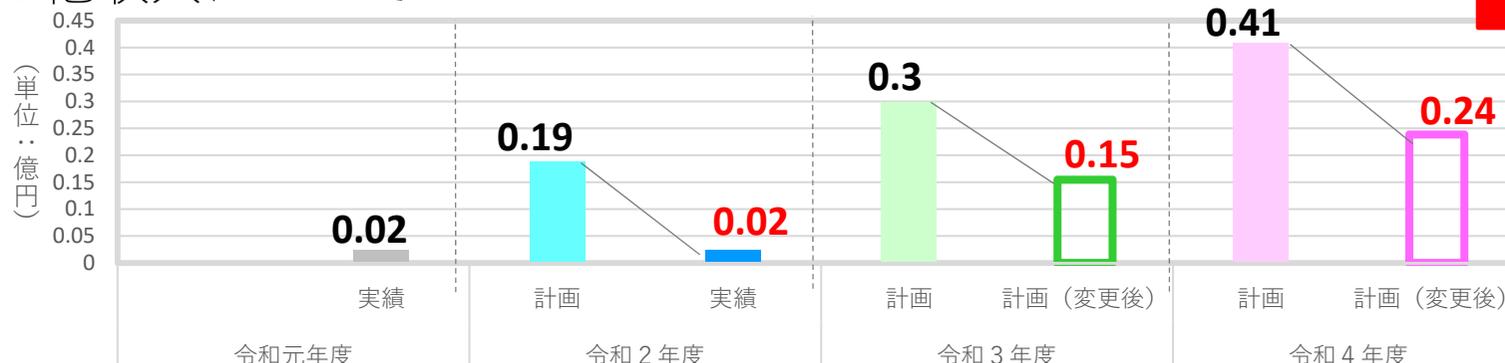
なお、数字の根拠は以下のとおり。

- 令和3年度**1.59億円** = R2年度の取組に加え、OIラボの竣工、OIプログラム会員制度の開始、医療情報分譲システムの開始、Club150運用体制の構築等による。
- 令和4年度**3.27億円** = 令和3年度に新たに導入した仕組みを実質化及び強化する。検体分譲のマッチングシステムの構築、Club150会員の勧誘強化等による。

1. 民間資金獲得状況

計画見直し

<その他収入について>



《概要・目的》 大学院改革プログラムによる地域企業参画組織を創設し、協賛金等の増収を図る。

《令和2年度の計画と実績》 計画 0.19 億円 実績 0.02 億円

《原因分析》 当初、卓越人材を育成する大学院プログラム（Green-STI）を軸として、地域の経済団体所属企業を対象とした有料会員組織「Green-STIパートナーズ（仮称）」を創設し、「教育の価値」を「収益の価値」に転換するスキームを構築する計画であった。その後、より効果的で持続的なものとするため、大学院改革プログラムから全学へと発展させ、地域創生に貢献し地域・産業界と協働する岡山大学の「共育共創」窓口としての機能を担う「岡山大学パートナーズ」を立ち上げる構想に至り、計画を変更した。計画の発展・拡大に伴い、内容検討・準備に多くの時間を要したため、研究室カタログ等のコンテンツは完成したが、企業に参加を促す活動が十分にできなかったため、初年度の獲得額が計画額を大幅に下回った。

《改善策》 「岡山大学パートナーズ」が参画企業に提供するサービス（例：履修証明プログラムやセミナー等による企業研修等）の充実を図るとともに参画企業への勧誘強化を行う。持続的な発展と自走を目指し、組織を段階的・漸進的に拡大するため、一時的に計画を下方修正するが、令和4年度の当初の計画水準は、数年後には、越える想定している。なお、計画の数字の根拠は以下のとおり。

- 令和3年度**0.15億円** = 会費等9,450千円、プログラム受講料1,000千円、寄付講座5,000千円
- 令和4年度**0.24億円** = 会費等10,945千円、プログラム受講料2,900千円、寄付講座10,000千円

2. 取組の進捗状況

◎：計画以上に進捗している
 ○：計画どおりに進捗している
 △：当初の計画どおり進捗していないが、目的は達成している
 ×：当初の計画どおり進捗せず、目的も達成していない
 -：計画の修正、変更などにより評価できない
 ※：その他



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

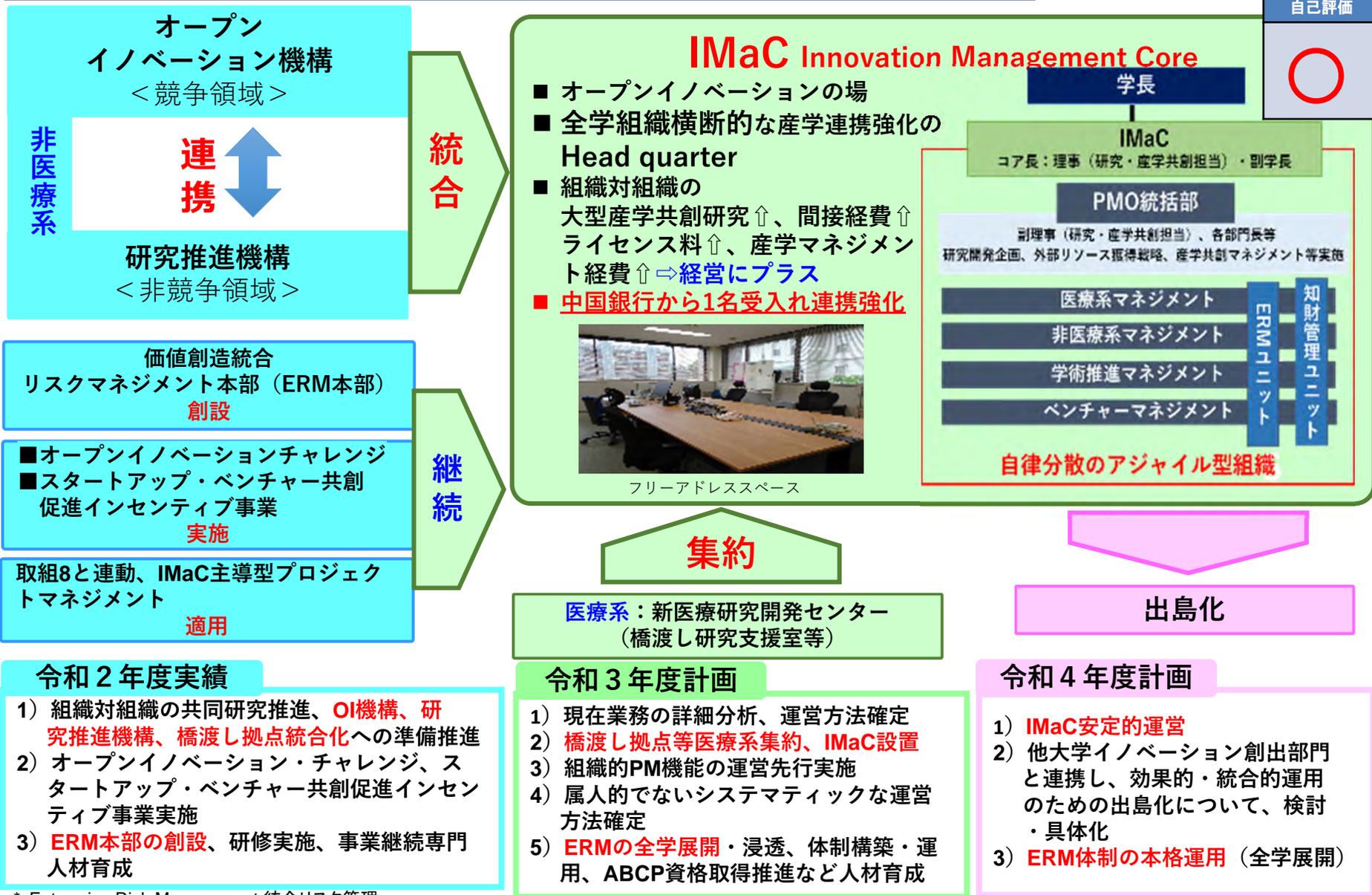
<取組概要>

取組	令和2年度 自己評価	内容
イノベーション・マネジメント・コア (IMaC) の創設	○	業務実態を分析し、自律分散型組織とすることとし運営について検討中。PM等の一部機能を先行実施、10月にIMaC設置の準備を進めている。オープンイノベーション・チャレンジ、共創促進インセンティブ事業実施。ERM本部創設、事業継続専門人材育成し、本格運用の準備を進めた。
共同研究における費用負担適正化	○	民間企業からの間接経費収入について目標額1.09億円を 上回る1.10億円を達成 した。また、間接経費率は目標どおり 28%を達成 した。「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式（知の価値付方式、総額方式）の制度を構築した。
新知財戦略の策定と実施	◎	「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」（追補版を含む）に基づき、これまで以上に知財の活用や技術移転等に重きを置いた内容で知的財産ポリシーを改訂するとともに、新たに知的財産戦略を策定した。また、知財収入額は、 目標額0.13億円を大きく上回る0.27億円を達成 した。
寄附金獲得体制の強化・充実	◎	計画どおり実施し、寄付額は 目標額0.7億円を上回る0.79億円を達成 した。
大学院改革プログラムによる地域企業参画組織の創設	-	「教育の価値」を「収益の価値」に転換するスキームを構築する当初計画であったが、より効果的で持続的なものとするため、計画を発展させ、地域創生に貢献し地域・産業界と協働する岡山大学の「共育共創」窓口としての機能を担う「岡山大学パートナーズ」を立ち上げる計画へと変更した。
大学発スタートアップ・ベンチャー支援及び既存のスタートアップ・ベンチャー企業との協働	◎	<u>目標（2社）</u> を 上回る3社が起業 。学生を巻き込んだ学内外のスタートアップ・ベンチャー支援・連携体制の構築・強化が順調に進んでいる。
遠隔総合物質解析システム（CASTEM）による共用機器の産業利用	△	基盤ソフトウェアの開発、機器ネットワーク対応で、取組基盤構築は目標通り完了。CASTEMを用いた研究活動の影響と、コロナ禍によるオンサイト解析実施不可のためソリューション受注が遅延し、収入当初計画は未達。
大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化	◎	体制整備を図り、収益は 目標額0.32億円を大きく上回る0.78億円を獲得 した。また、令和3年度に向け、施設設備、体制強化、収益増となる運用システム・ルールの検討を進めた。

2. 取組の進捗状況

【取組1】イノベーション・マネジメント・コア (IMaC) の創設

令和2年度
自己評価



*: Enterprise Risk Management 統合リスク管理

2. 取組の進捗状況

【取組2】共同研究における費用負担適正化

令和2年度実績 1.10億円

- 1) 民間企業からの間接経費収入について目標額1.09億円を上回る1.10億円を達成した（令和元年度比134%）。また、間接経費率は目標どおり28%を達成した。
- 2) 「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式（知の価値付方式、総額方式）の制度を構築した。
 - ・研究者の価値を「研究者ナレッジ経費（間接経費）」として令和3年度から料金に算定可能とした。
 - ・研究マネジメントの価値を「戦略的産学連携経費（間接経費）」として令和3年度から料金に算定可能とした。
 - ・企業からみた当該共同研究の価値付けによる総額方式を令和3年度から選択可能とした。

令和3年度計画 1.16億円 → 1.17億円

- 1) 民間企業からの間接経費収入1.17億円、間接経費率30%を目標とする。共同研究の新規契約案件について、令和3年度から算定可能とした知の価値付け等による新料金算定制度に基づき、コーディネーターが間接経費率30%以上を目標に企業に対して共同研究経費の交渉を実施している。
- 2) 知の価値付け等による新料金算定制度の本格的実施（研究者ナレッジ経費の浸透）をしている。（令和3年7月時点で11件契約。当該分の間接経費率50%）
- 3) 産学連携活動用研究者紹介システム構築及び公開による獲得資金の増加を図る。

令和4年度計画 1.23億円 → 1.25億円

- 1) 民間企業からの間接経費収入1.25億円、間接経費率32%を目標とする。
- 2) 知の価値付け等による新料金算定制度の検証及びさらなる実施をする。
- 3) 産学連携活動用研究者紹介システムの利活用を行い獲得資金の増加を行う。

令和2年度実績 1.10億円
令和2年度計画 1.09億円

令和2年度
自己評価



達成率
101%

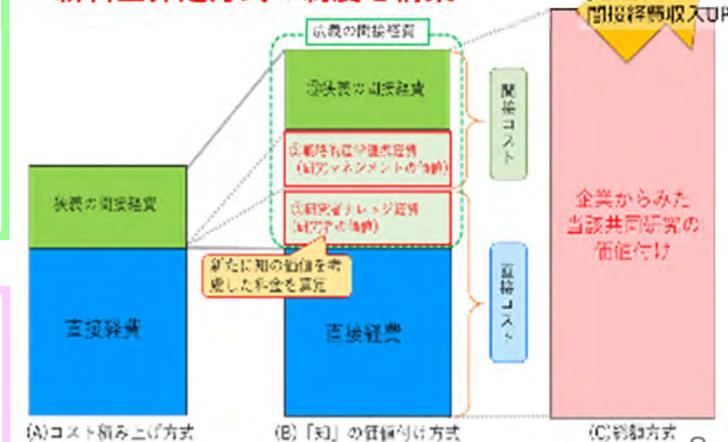
計画
上方修正

R2年度間接経費率28%を達成
間接経費収入はR1年度比134%UP

共同研究費の間接経費収入(見込)額(R2~R4)

年度	受入額	備考
R2年度	109,514千円	間接経費率28%(対R1年度+27,574千円) 対令和元年度比134%
R3年度	117,302千円	間接経費率30%(対R1年度+35,362千円) 対令和元年度比143%
R4年度	125,122千円	間接経費率32%(対R1年度+43,182千円) 対令和元年度比153%

「産学官連携ガイドライン」に対応した新料金算定方式の制度を構築



2. 取組の進捗状況

【取組3】 新知財戦略の策定と実施

令和2年度実績 0.27億円

- 「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」（追補版含む）に基づき、知財の活用等をより重視する内容で**知的財産ポリシーを改訂**した。
- 活用を意識した知的財産マネジメント、経営の観点からの知的財産マネジメント等を骨子とした**新たな知的財産戦略を策定**した。目標額0.13億円を大きく上回る**0.27億円を達成**した。

令和3年度計画 0.13億円 → 0.27億円

- 令和2年度に策定した新知財戦略の実施に向け活動を展開している。具体的には
 - 技術移転可能な発明の掘り起こし
 - 保有出願・権利を技術移転可能性の視点から再構築（無駄な出願権利を放棄⇒経費削減⇒新規出願費用へ回す）
 - 本学の技術移転能力の向上（外部TLOからの人員受け入れ）を図るにより、「**一気通貫型知的財産マネジメント**」体制を構築する。
- まずは、上記C.の活動に注力し、技術移転の手法及び売れる発明・特許の目利き力の向上を図る。

令和4年度計画 0.14億円 → 0.28億円

- 令和3年度に注力し獲得した目利き力で、上記B.を実施するとともに、上記A.売れる発明の掘り起こしに注力することにより、「**一気通貫型知的財産マネジメント**」をさらに深化させる。

令和2年度実績 0.27億円
令和2年度計画 0.13億円

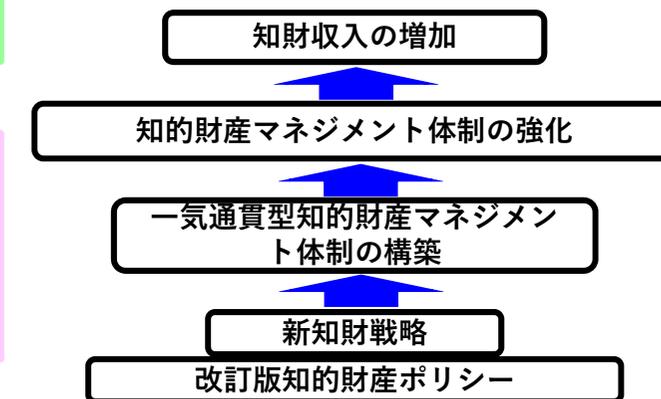
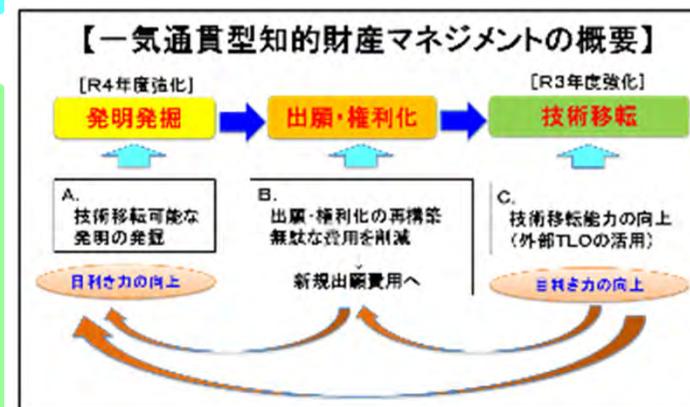
令和2年度
自己評価



達成率
214%

計画
上方修正

※詳細は1.民間資金獲得状況にて説明



2. 取組の進捗状況

【取組4】寄附金獲得体制の強化・充実

令和2年度実績 0.79億円

[体制の強化・充実]

- 1) 広報宣伝の専用車両（ラッピングカー）を導入して企業訪問を円滑に行った。
 - 2) 学都基金のホームページをスマホ等への対応を含め全面改修し、募金広報の充実を図った
- [取組事例]
- 1) 「新型コロナウイルス感染症関連支援」の特定基金を学都基金に設置、学内教職員並びに同窓生を中心に広く寄付を呼びかけた。
 - 2) 三井住友信託銀行が企画実施の「新型コロナワクチン・治療薬開発寄付口座」への参画により、大学関係者以外にも広く寄付を呼びかけた。

以上の取組により、寄付実績は令和元年度0.48億円から大幅にアップし**令和2年度0.79億円**（利息・運用益を含む）となり、計画以上に進捗した。

令和3年度計画 0.80億円 → 1.00億円

[体制の強化・充実]

- 1) 関東圏を担当する専任のファンドレイザーを1名増員して、企業、同窓生からの寄付金獲得を強化する。
- [取組事例]
- 1) 学内教職員並びに同窓生を中心に広く寄付を呼びかけるとともに、「新型コロナウイルス感染症関連支援」による寄付募集を令和2年度から引き続き実施し、継続寄付を募る。
 - 2) 三井住友信託銀行が企画実施の「医療支援寄付信託」及び「遺言代用寄付信託」への参画により、大学関係者以外にも広く寄付を呼びかける。
 - 3) 新規の寄付講座獲得に向け、取組を強化する。

令和4年度計画 1.00億円 → 1.20億円

- 1) 令和3年度に増員したファンドレイザーを加えた新体制のもと、企業、同窓生からの寄付金獲得の活動を積極的に推進する。
- 2) 三井住友信託銀行が企画実施の寄付事業を引き続き実施し、岡山大学Alumni（全学同窓会）とも連携して新たな寄付層の開拓を進める。

令和2年度実績 0.79億円
令和2年度計画 0.70億円

令和2年度
自己評価



達成率
113%

計画
上方修正



▲令和2年度学都基金寄付実績（内訳）



▲広報宣伝の専用車両（ラッピングカー）

2. 取組の進捗状況

【取組5】大学院改革プログラムによる地域企業参加組織の創設

令和2年度実績 0.02億円

- 1) 既存の「産学官融合センター研究協力会」について会員拡大活動を実施した。その結果、加入企業数は53社（昨年度52社）、会費収入は2,400千円（前年度2,350千円）であった。
- 2) 本計画の構想の拡大を行うため、大学院改革・産学共創に関するアンケートを実施し「岡山大学パートナーズ」への入会意向調査を行った結果、51%（63社中32社）から検討可能との回答を得た。
- 3) 「岡山大学パートナーズ」の設置のため設置規程と会則を整備した。
- 4) 共同研究促進のためのプロモーションコンテンツ作成に着手し、第1弾となる**研究室カタログ（研究シーズ集）**を完成・公開した。

令和3年度計画 0.30億円 → 0.15億円

- 1) **共同研究促進のためのプロモーションコンテンツの拡充** 《改善策の実行》
- 2) 「岡山大学パートナーズ」に提供する「共育共創」事業の詳細検討
- 3) 「岡山大学パートナーズ」の**会員勧誘活動**
- 4) リカレント教育(セミナー等)など技術者教育事業の提供による受講料等の増収
- 5) 「岡山大学パートナーズ」会員企業の交流促進事業の実施

令和4年度計画 0.41億円 → 0.24億円

- 1) プロモーション手法の強化 《改善策の実行》
- 2) 「岡山大学パートナーズ」の**会員勧誘活動の強化**
- 3) 「岡山大学パートナーズ」の**会員企業の交流促進事業の拡充**
- 4) 共同研究の優先的なマッチング支援や技術援助等により「岡山大学パートナーズ」会員収入の増収
- 5) **リカレント教育を強化し、履修証明プログラムの実施等、技術者教育事業の提供による受講料等の増収**

令和2年度実績 0.02億円
令和2年度計画 0.19億円

令和2年度
自己評価

達成率
13%

計画見直し

※詳細は1.民間資金獲得状況にて説明



▲共育共創の大学院改革イメージ図



▲岡山大学パートナーズのWEBサイト

2. 取組の進捗状況

【取組6】大学発スタートアップ・ベンチャー支援及び既存のスタートアップ・ベンチャー企業との協働

令和2年度実績

■起業実現支援 ~起業数増大

1) (株)リバネス・(株)中国銀行・中小機構等とベンチャー支援体制の構築を進めた。

■起業体質改善 ~すそ野拡大

- 1) 未来共創イノベーションネットワーク(INCF)と医療系ベンチャーに関するイベントをオンラインで開催。また岡山スタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ」で学生による2回の起業支援イベントの開催を支援。
- 2) ヘルスケア分野の新事業創出活動「岡山リビングラボ」の活動を支援。
- 3) 技術ドリブンで様々な課題解決に学生主体で取り組む学生サークル「データサイエンス部」の創設を支援。
- 4) 医療系シーズ及びベンチャーPR記事を6報作成し、順次PRTIMESに掲載。

令和3年度計画

■起業実現支援 ~起業数増大

- 1) 学内のスタートアップ・ベンチャー支援体制及び(株)リバネス・(株)中国銀行・中小機構等多様なプレイヤーとの起業支援に係る連携体制の構築・強化
- 2) 大学発ベンチャー発掘・事業化支援事業の実施 **(当補助金で学内公募事業を実施)**

■起業体質改善 ~すそ野拡大

- 1) アントレプレナー・イントレプレナー教育の実施
- 2) ヘルスケア分野の新事業創出活動「岡山リビングラボ」への支援
- 3) 「データサイエンス」部等学生主体の活動への支援強化
- 4) スタートアップ・ベンチャー関係コンソーシアム等との連携体制の構築

令和4年度計画

■起業実現支援 ~起業数増大

- 1) 学内のスタートアップ・ベンチャー支援体制及び(株)リバネス・(株)中国銀行・中小機構等多様なプレイヤーとの起業支援に係る連携体制の一層の強化
- 2) 大学発ベンチャー発掘・事業化支援事業の実施

■起業体質改善 ~すそ野拡大

- 1) アントレプレナー・イントレプレナー教育の実施
- 2) ヘルスケア分野の新事業創出活動「岡山リビングラボ」への支援
- 3) 「データサイエンス」部等学生主体の活動との連携・支援体制の確立
- 4) スタートアップ・ベンチャー関係コンソーシアム等との連携体制の強化

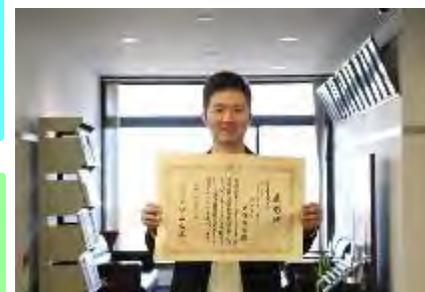
令和2年度実績	3社
令和2年度計画	2社

令和2年度
自己評価



達成率
150%

計画
上方修正



◀昨年度起業した「ABABA」がキャンパスベンチャーグランプリ経済産業大臣賞獲得



◀未来共創イノベーションネットワーク(INCF)と連携し、スタートアップ・新規事業創出強化セミナーをオンライン開催



◀学生による起業支援イベントを支援

2. 取組の進捗状況

【取組7】遠隔総合物質解析システム(CASTEM)による共用機器の産業利用

令和2年度実績 0億円

- 1) CASTEM 24 Remoteの機器類をリンクする**専用ソフトウェア**の開発・納品を完了機器のネットワーク対応整備を実施した。
- 2) 事業取組の支援を行う**サイテックコーディネーター**1名が着任。さらに、同コーディネーターとして**民間企業から1名(クロスアポイントメント)**の採用を決定。
- 3) 民間企業からの委員6名を加えた**CASTEM 24 Remote運営協議会**を設置、第1回運営議会にて、次年度の事業展開に向けた方策を議論した。

令和2年度実績 0.0億円
令和2年度計画 0.1億円

令和2年度
自己評価



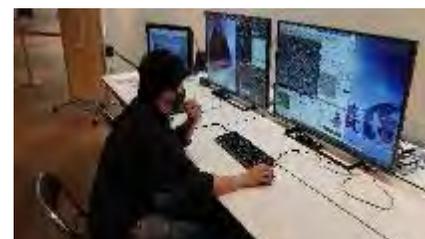
達成率
0%

計画見直し

※詳細は1.民間資金獲得状況にて説明

令和3年度計画 0.5億円 → 0.3億円

- 1) 民間企業の機器利用の基盤となる**セキュリティを重視したネットワーク整備**を実施。
- 2) 遅延挽回のため新たに**URA2名**を加え、具体的な産業界へのアプローチを開始。
- 3) 前年度で退職となった本取組実行責任者を産学連携コーディネーター(特任教授)として雇用し、体制に万全を期した。
- 4) 「スペースサイエンスワールド星取県」(鳥取県主催・岡山大学後援)にて小惑星リュウグウ試料の遠隔観察をデモ。拡販のため機器遠隔利用の有効性を一般企業にアピール。
- 5) 前年整備を行ったマルチ解析座標リンクージソフトウェアに加え、データベースリングージソフトウェアを開発し、**統合的リモート運用環境**を完成させる。
- 6) 10社程度の民間企業からなる**CASTEM24Remote普及推進コンソーシアム**を設置し、普及と継続的な資金獲得の枠組みを構築する。



宇宙関連ベンチャー企業による遠隔機器利用の様子



第1回運営協議会



機器運用支援を行う民間からのサイテックコーディネーター



CASTEM 24 Remote機器を用いてリュウグウ試料の解析を進める研究者

令和4年度計画 0.9億円 → 0.8億円

- 1) 前年度までに構築を完了した**CASTEM 24 Remote基盤**を活用し、民間企業からの機器利用を促進し、目標とする収入の獲得を目指す。
- 2) CASTEM 24 Remoteシステムを、学内外(民間企業・他研究機関)に普及させ、**新しい機器共用プラットフォーム**を構築する。
- 3) CASTEM 24 Remoteにおける実績を基盤に、多様な解析機器のデータ標準化を進め国際的な**研究開発イニシアチブを担う体制**を整備する。

新しい大学発の研究開発基盤を構築し、先端的研究をベースに、産業界による機器利用の促進へ。

2. 取組の進捗状況

【取組 8】 大学病院が持つ新たな価値としての診療外事業としての収益確保強化

令和2年度実績 0.78億円
令和2年度計画 0.32億円

令和2年度
自己評価

民間資金獲得が次の施策に繋がり、次なるイノベーション創出を起こす研究へ投資する
イノベーションエコシステムを構築

達成率
243%

計画
上方修正

※詳細は1.民間資金獲得状況にて説明

「意識変革」

診療報酬によらない収入の獲得
自らのリソースを収益へ転換
(情報、画像、バイオバンク、遊休スペース、
機器利用、支援・・・)



令和4年度計画 3.21億円 → 3.27億円

【持続可能性・エコシステム】

令和3年度までの取組強化、持続可能な収益獲得策の構築

- 1) 検体分譲マッチングシステムの加速による収益増
- 2) Club150会員勧誘の強化による寄附金増
- 3) OIラボ利用者、OIプログラム会員から大型共同研究等に展開

令和3年度計画 1.15億円 → 1.59億円

【実質化・拡充・加速】

令和2年度取組の強化・加速化、体制拡充から

- 1) OIラボ竣工：企業等への貸付料・OIプログラム会員（先行実施、次世代人材育成）
- 2) 共同研究型医療情報分譲システムの構築による収入獲得
- 3) Club150制度の確立により、会員獲得による寄附金増
- 4) 検体分譲マッチング、医療情報閲覧システム運用、先端設備整備による機器使用料、大型共同研究等

令和2年度実績 0.78億円

【始動・環境整備】

大学の戦略的・組織的産学共創の加速構想のもと

- 1) 高度研究支援人材（民間・省庁経験者等）、テクニカルスタッフ等の配置 → 外部資金（共同研究等）の増、研究開発支援費
- 2) 新医療研究開発センター、バイオバンク、医療情報部等の連携体制強化 → 検体分譲収入（診療情報付）
- 3) 共同研究・情報分譲等、民間からの資金を呼び込む建物・設備の整備（繰越事業）
- 4) 次年度事業加速のため、料金表、分譲要項、Club150寄附制度検討

オープンイノベーションラボ

寄附制度 (Club150)

高度研究支援人材
OIプログラム会員制度

院内センターの強い連携による医療情報・検体分譲が次世代医療開発を生む

医療情報部

分譲依頼受付
共同研究契約

依頼

臨床データ
書き出し

臨床データ
提供

検体分譲依頼
臨床検体の提供

【研究者ニーズ】

- ✓ 高い検体・情報
- ✓ オンデマンドで、きめ細かいオーダー
- ✓ 匿名化された臨床情報
- ✓ 自社製品の改良等、研究開発
- ✓ リアルワールドデータ

岡山大学病院

企業等

最先端解析システム群

唯一無二の最先端設備が民間資金を生む
(共同研究・受託解析・機器使用料)

3. 交付金の活用状況

令和2年度（交付済：5億円【そのうち4億円を令和3年度に繰越】）

令和3年度（交付見込：総額2億円【留保分：0.8億円】）

目的	交付年度	使途	金額 (単位:億円)	期待される効果
マネジメントの強化と高度専門人材の充実	R2	組織改組の検討支援委託費, 職員向け研修, 広報活動経費 等	0.16	社会のニーズに合致する組織改組により、企業側の安心感・納得感を得られ、「組織」対「組織」による大型共同研究の獲得増につなげる。 知的財産マネジメントの高度化を図り知財収入を増加させる。大学ブランドイメージ向上を図り、寄附金収入を増加させる。これらの取組により、大学の経営基盤を強化し、教育・研究活動を精力的に推進し、社会への知の還元、社会貢献を行う。
	R3	教員人件費, 知財関係業務委託費 ERM構築事業 等	0.58	
教育研究の価値や既存ネットワーク研究基盤プラットフォームを「収益の価値」に転換	R2	研究設備更新, 職員向け研修 WEBサイト構築経費 等	0.67	外部からのリモート利用に対応した研究設備の更新は、「人の移動を伴わない」新しい研究環境を構築することになり産学連携の活性化のみならず、我が国のアカデミアにおける基礎研究の在り方に変革をもたらす。 また、学内の研究シーズの見える化により、さらなる共同研究の推進を図るとともに、「共育・共創」事業の開発も進めることにより、大学と地域社会がともに発展することができる。
	R3	研究設備更新, 事業推進人件費 等	1.07	
ビジネスに直結している医療系活動を強化した「収益の増強」を推進	R2	教員（PM）人件費, 職員人件費 クラブスペース設備整備費 等	0.15	高度研究支援人材等の導入による外部資金獲得を増加させる。先端設備の整備や産学共創ラボの整備による共同研究費を増加させる。エンゲージメントの高まりにより、ともに発展する寄附制度を構築する。 これらの収益確保の取組が、病院の経営基盤強化とイノベーション創出につながり、国民の健康寿命の延伸につながる次世代医療技術開発が加速度的に進むことが期待される。
	R3	企業ラボ改修工事・設備費 事業推進人件費 医療データ閲覧システム 等	3.77 【0.4】	
出遅れているスタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり「収益の芽」を育てる	R2	プレスリリース作成委託費, 講師等謝金 等	0.02	ベンチャー企業を創出する環境整備が進むことにより、大学の持つ研究成果や技術が社会実装される機会が広がり、社会が抱える課題の解決等につながる。
	R3	ベンチャー発掘支援, 講師等者謝金 等	0.17	

（【 】は留保分からの支出予定）

4. 大学収入の状況

<民間資金獲得計画>

民間資金獲得額増加計画調書申請時

(単位：億円)

費目名	令和元年度実績	令和2年度計画	令和3年度計画	令和4年度計画	増加額 令和4 - 令和元
産学連携による間接経費収入	0.82	1.09	1.16	1.23	0.41
寄附金収入	0.48	0.70	0.80	1.00	0.52
特許収入	0.13	0.13	0.13	0.14	0.01
研究機器産学利用収入	0	0.10	0.50	0.90	0.90
医療系（診療報酬外）収入	0	0.32	1.15	3.21	3.21
その他収入	0.02	0.19	0.30	0.41	0.39
民間資金獲得額（全体）	1.45	2.52	4.04	6.89	5.44

R2~4累積
13.45

実績及び変更後の計画

(単位：億円)

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画	令和4年度計画	増加額 令和4 - 令和元
産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	1.17	1.25	0.43
寄附金収入	0.48	0.79	1.00	1.20	0.72
特許収入	0.13	0.27	0.27	0.28	0.15
研究機器産学利用収入	0	0	0.30	0.80	0.80
医療系（診療報酬外）収入	0	0.78	1.59	3.27	3.27
その他収入	0.02	0.02	0.15	0.24	0.22
民間資金獲得額（全体）	1.45	2.96	4.48	7.04	5.59

+1.03

R2~4累積
14.48

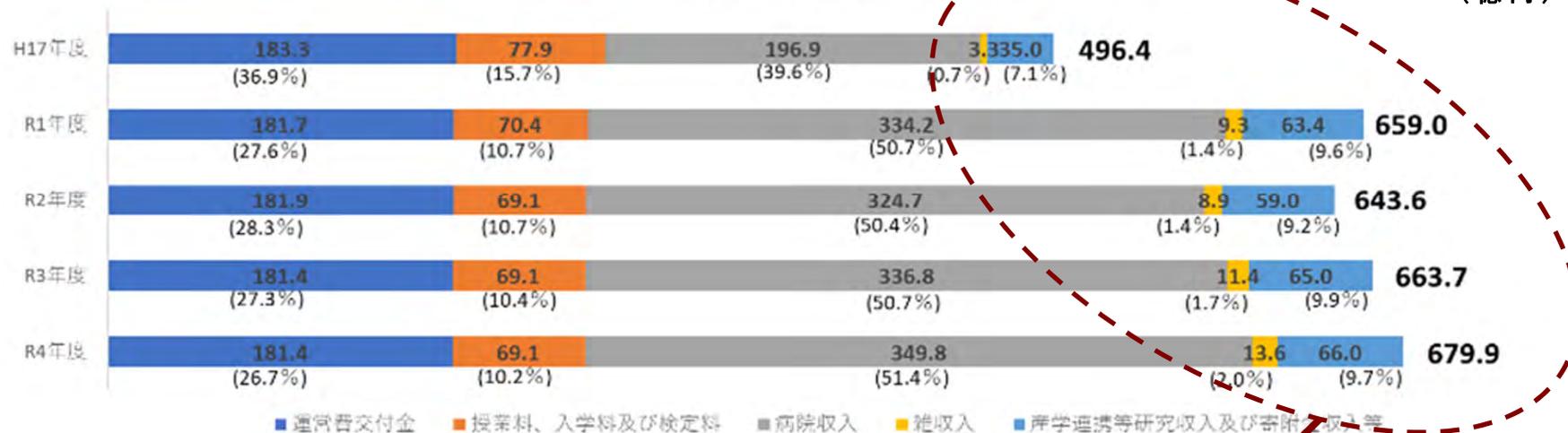
「産学連携による間接経費収入」 について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画	令和4年度計画	増加額 令和4 - 令和元
間接経費	0.82	1.10	1.17	1.25	0.43
上記間接経費に対応する直接経費	3.58	3.91	3.91	3.91	0.33
総額	4.40	5.01	5.08	5.16	0.76

4. 大学収入の状況

<実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み>

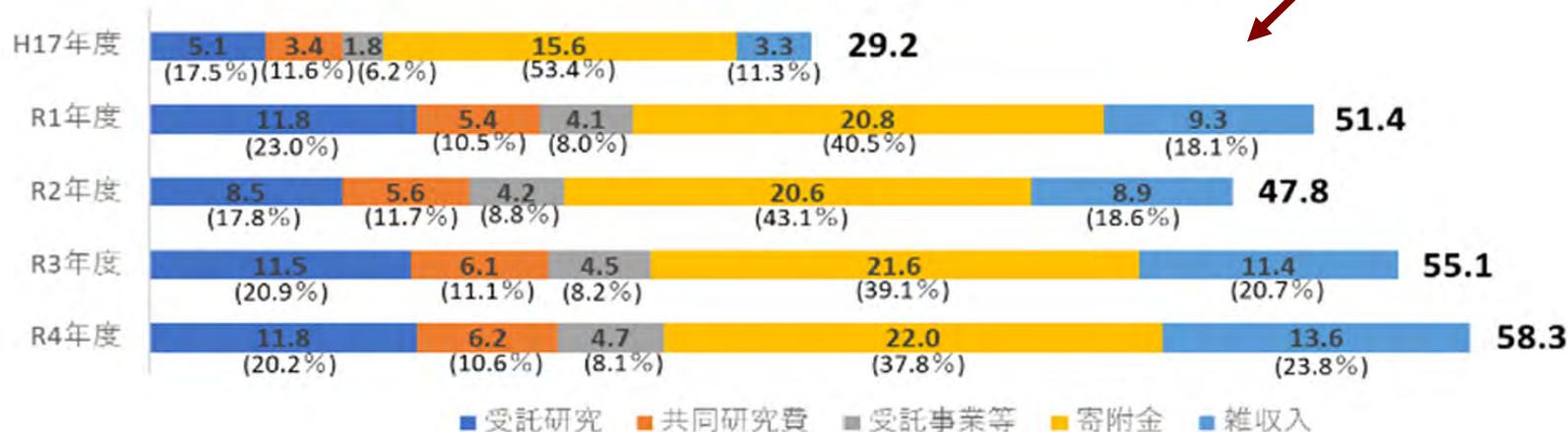
岡山大学の収入の推移 (R1年度→R4年度)

(億円)



岡山大学の外部資金収入の推移 (R1年度→R4年度)

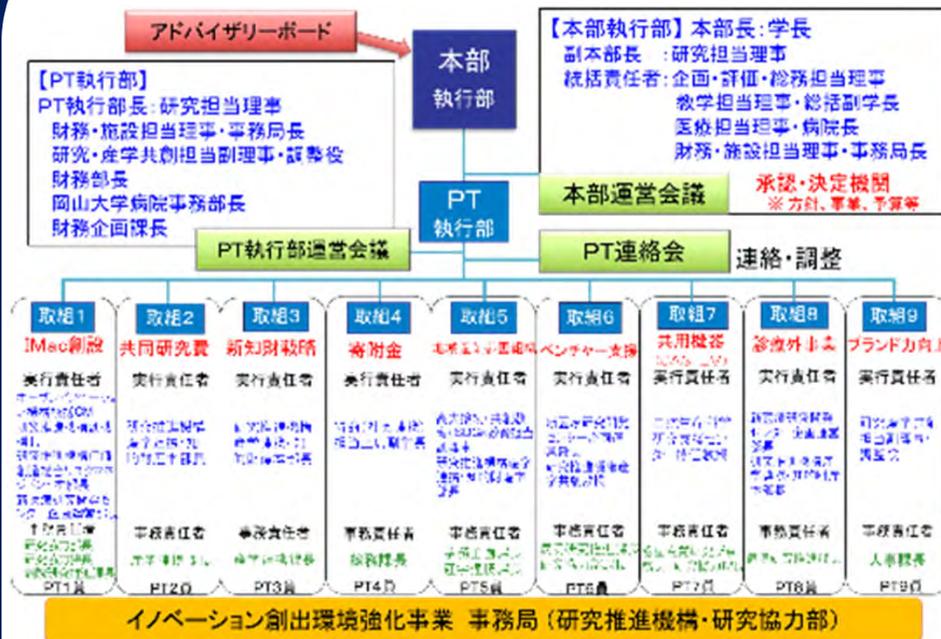
(億円)



そのうち...

5. その他

本事業における学内ガバナンス体制



- ・ 学長をTOPとするガバナンス体制を構築。
- ・ PT執行部において迅速に意思決定を行い事業を推進。
- ・ 各取組の進捗状況確認や課題点への対応方針決定のため、毎月PT連絡会を開催し、進捗状況を見える化。
- ・ 学外有識者からなるアドバイザーボードを設置し、いただいたご意見等を施策に反映。

中国銀行との包括連携協定（おかやま未来共創アライアンス）による実施体制

- ・ 産官学金及び地域との連携によりSDGs達成に取り組み、地域の発展に貢献し未来を共に創造する。
- ・ 本事業においても「SDGsの推進、地域でのパートナーシップ構築、産学連携の推進、ベンチャー企業に対する支援」などに関する複数の取組において密接に連携・協業し事業を推進。

・ 令和3年度下半期からは 中国銀行から岡山大学へ職員を派遣する予定であり、確固たる連携体制を構築。



- ・ 執行部間での定例会議（複数回/年）を設け、施策の実行性を確保。



岡大発 有望ベンチャーが次々に誕生！



・2020キャンパスベンチャーグランプリ
全国大会にて、『経済産業大臣賞』
を受賞！

・(株)ABABAが公益社団法人日本青年会
議所（JCI）の第5回価値デザインコンテ
スト（2021年7月）で『SDGs日本賞』
を受賞！

・(株)NTTドコモ・ベンチャーズの伴走
型インキュベーションプログラ「/HuB」
に採択！

・(株)TechSword（本学院生の長島さん、
宮本さん）が今年5月に創業。



はやぶさ2が持ち帰った リュウグウ試料の初期総合解析に活用！

「スペースサイエンスワールド星取県」鳥取市会場（7/4・5）からデジタル光学顕微鏡と走査電子顕微鏡を**CASTEM 24 Remote**を利用して遠隔操作するアウトリーチを実施

<https://pml.misasa.okayama-u.ac.jp/pages/news/2021ssw1.php>

とりぎん文化会館（鳥取市）



遠隔機器利用の様子

バーチャルラボの実証

- ・本事業で整備した**セキュアネットワーク**基盤を活かし機器遠隔利用をデモ
- ・**有効性を一般企業にもアピール**

岡山大学惑星物質研究所（鳥取県三朝町）



デジタル光学顕微鏡



走査電子顕微鏡

惑星物質研究所（三朝町）の地球惑星物質総合解析システム（CASTEM）による**リュウグウ試料**初期総合解析の推進